



中野 茂夫(教授)

## 1 メッセージ

都市は、人類がつくった最大の構造物です。このため実験的なモデルをつくることは難しいので、過去から学び、現在を観察し、そして未来を見据えた時間軸のなかで、都市デザインを構想します。

とりわけ近年は、スクラップ&ビルドの時代が終わり、歴史や文化のストックを継承しながら、あたらしい都市・建築空間を提案する必要があります。

## 2 研究テーマ

都市デザイン  
都市計画  
景観  
まちづくり  
都市・建築史

## 3 担当科目

都市計画論  
居住地計画学  
基礎設計製図2 (共担)  
設計製図3B (共担)  
居住環境学概論 (共担)  
居住空間計画学特論  
設計プロジェクトマネジメント

## 4 主な著書

単著『企業城下町の都市計画』(筑波大学出版会、2009)  
共編著『モデル・コミュニティ』(人と住まい文庫9、2021)  
共編著『空想から計画へ』(思文閣出版、2021)  
共著『地域文脈デザイン』(鹿島出版会、2022)  
共著『はじめての都市計画』(市ヶ谷出版、2024)  
共著『ARCHITECTURES AT WORK』(Forma Edizioni S.r.L、2021)

## 5 主な論文

中野茂夫「戦前地方都市における都市計画の策定経緯と事業化～松江市を事例に～」(『日本建築学会計画系論文集』第759号、pp.1311-1321、2019.5)

NAKANO SHIGEO「The application of city planning theory to industrial development in Japan -Another introduction process of garden city theory and neighborhood theory-」(IPHS2018)

中野茂夫ほか「トヨタ自動車の企業城下町(挙母-豊田)の工業化と都市計画」(『日本建築学会計画系論文集』第782号、pp.1314-1325、2021年4月)

Nakano Shigeo, et. Al. "Relationship Between Industrial Development and City Planning in Company Towns of the Japanese Steel Industry During World War II~A case study of Muroran, Kamaishi, Hirohata and Yahata~" "Urban and Regional Planning Review" Vol.3, pp.163-186, 2016.11

中野茂夫ほか「光・室積の新興工業都市計画」(『日本建築学会計画系論文集』第775号、pp.2053-2063、2020.9)

中野茂夫ほか「戦時下の建築学会住宅問題委員会・日本生活科学会建築関係分科会における近隣住区の検討」(『日本建築学会技術報告集』第67号、pp.1512-1517、2021年10月)

## 6 研究室活動

ゼミでは、都市や建築にかかわる新しいテーマを模索しています。

日本の都市をみまわしてみると、伝統的な町並みを除けば、ほとんどが、近現代の計画や事業でつくられていることがわかります。こうした比較的あたらしい都市空間の価値を再発見し、未来に継承することを考えています。

もちろん伝統的な町並みの景観やそれらを生かしたまちづくりの提案もリノベーションを含めて行っています。

都市デザインは、過去から現在、そして未来を見通した時間軸のなかで提案を行います。現実的な提案と夢のある構想を両面から探って、実現性を考えることが大切です。

ゼミ活動では、実際にまちをあるき、現場での素朴な疑問から発想することを大切にしています。その際、おおよそ予見されることではなく、研究を通し、はつと驚く発見を大事にしたいと思っています。



日本建築学会設計競技(2023年)



韓国調査の様子(2023年)

